アメリカ村から堀江へ

西長掘にある大阪市立中央図書館も、地方紙閲覧や大阪コーナーを利用するために、よく利用している。地下鉄御堂筋線「心斎橋」で降り、西に向かって歩くことが多い。図書館まで、大阪らしい街歩きを楽しむことができる。

駅近くに「アメリカ村」がある。御津公園、通称「三角公園」を中心にして、若者向けの店舗が集積しているところだ。1980 年代頃から、アメリカから輸入した衣服類などの店舗が並び、その後も衣料・雑貨・レコード、飲食店などが集まり、若者たちで賑わう街になっていく。

その中心が三角公園である。朝早く図書館に向けて通るときは閑散としているが、帰りに通る午後は平日でも、若者や外国人観光客で一杯になる。名古屋大須も、こんな感じで若者たちが集まるが、それとはまた雰囲気が違う。大須は「門前町」「商店街」ということもあり、お年寄りも子連れも目につくが、こちらは若者ばかりという感じだ。場違いな感じで、足早に立ち去る。

アメリカ村から西に歩いて、四つ橋筋を渡ると「堀江公園」がある。高層マンションやビルに囲まれた公園で、いつもは通り過ぎる。たまたま公園の片隅に「堀江川跡碑」を見つけた。碑には次のように記されている。

「元禄 11 年（1698） 河村瑞賢により、西長堀川と木津川を結ぶ堀江川が開削された。これにより、堀江新地が開発され、北堀江では浄瑠璃、南堀江では大阪相撲、また各種の産業が起こり、木村兼葭堂や橋本宗吉などの文化人や学者を輩出した。堀江川は単に物資や人の運搬だけでなく、堀江からの文化発信の通り道となっていたのである。昭和 35 年（1960）に埋め立てられ、その役割を終えた。この地はその堀江川の跡地である。」

『大阪春秋』134 号、2009 年に「堀江」が特集されている。それによると「堀江」は、北を長堀川、東が西長堀川、南を道頓堀川、西を木津川に囲まれた総称である。その中央を南北に分けるように開削されたのが堀江川。堀江川の南北両側はそれぞれ北堀江、南堀江と呼ばれる。「堀江」は生業の町として発展していった。

堀江川の跡地は現在、高層マンションが立ち並ぶ。しゃれた店も目につくが、古くからの店や事務所・事業所も多い。堀江川の面影はないが、なんだか歴史を感じさせる。

（2018 年 8 月 19 日）